

1 日時：令和2年10月28日（水）13:00～14:40

2 場所：WEB開催+対面形式

3 出席者

構成員 WEB参加：

慶應義塾大学 川嶋名誉教授、筑波大学 伊藤教授・川本教授、東北大学 鈴木教授、名古屋大学 森川教授、日本大学 石橋教授、法政大学 糸久教授・今井教授、香川大学 紀伊教授、名古屋大学 倉地特任准教授、東京大学 佐倉教授、立命館大学 塩見准教授、中央大学 中村教授、大阪大学 山崎准教授、国立研究開発法人 産業技術総合研究所 北崎センター長、独立行政法人自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 河合部長、理化学研究所 中川チームリーダー・小出 研究員、

対面参加：

同志社大学 三好教授、東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター／東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授・大口教授・中野教授・鹿野島准教授・霜野特任助教・内村特任研究員・梅田特任研究員

ガザバー 内閣府 古賀氏、荒木氏

事務局 社会システム株式会社（東野氏、金子氏）

支援

4 議事概要

(1) 須田機構長 挨拶

(2) 前回議事概要の確認

(3) 今後の学学連携について

・資料2について説明。

(主な議事)

・ポストコロナで、これまでスケールの密なところを前提としたようなものに対して、より分散化した形であったり、特に地方への展開という意味であれば、都心の地価が差も下落し、むしろ地方に対して分散化する流れが見えてきているという点では前向きに捉えられているというのがあるというので、そういったことを考えたモビリティ社会とビジョンというのが非常に大事なところだと思う。

・ポストコロナに向けたモビリティ・ビジョンについては、10/24（土）UTmobI トークショー2020 を開催した。

・大変面白いアプローチだと思うが、Sustainable という表題があまり適していないのではないかな。

(4) 国際連携について

・資料3について説明。

(主な議事)

・世界的な会議について、対面で行ってきた会議をオンラインで置き換えるという形で、進めていくということだと思うが、オンラインになるとやり方も少し変わるのではないかな。

- ・対面開催でないと、新しい出会い、そこから発想、新たなプロジェクトの芽が起こるといった機会が作りにくくなってきている。

(5) Level4 モビリティサービス実現に向けた検討

- ・資料 4 について説明。

(主な議事)

- ・東京大学として、SIP のネクストフェーズに向けて、今後どのようなことを行っていくべきか、どのような体制をとるべきか検討している。また、自動運転が社会の中で使われることで世の中がより良くなるようにしていくポイントの議論をしてきた。地域限定、条件限定で Lv4 をサービスとして提供されることによって、人やモノの移動を支えていくことが今後の社会生活に価値があるだろう。

(6) その他

(主な議事)

- ・名古屋大学では、11 月から高蔵寺ニュータウンでの自動運転の実証実験を、予定通り実施する。今年度中に、ほかに 4～5 箇所を計画しているが、いずれも実施予定である。
- ・前回の議事録で Lv4 実現に向けての課題として道路交通法が触れられているが、技術の方がどのあたりに懸念を持っているのか。
- ・Lv2 をベースにオーナーカーの高度化が進んでいくと思われる。一方で、人が運転する、二種免許や事業免許がないと実現できない移動のサービスについて、もう少し人の関わりがなくても実現しようとする社会制度を変えていく必要がある。
- ・各国でサービスを意図して Lv4 を実現するための様々な実証実験については、今あるオーナーカーを発展させることは別の文脈での取り組みが活発化している。どのようなフレームで扱っていくのかはもっと議論を深められないとならない。

(7) 今後の予定

- ・今年度は本会議をあと 1 回実施予定である。

以上